

講義名	コミュニケーション心理学		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	池田 曜子/西尾 範博		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

コミュニケーションに関する基礎的基本的な知識を理解したあと、コミュニケーションを心理学、とりわけカウンセリング心理学の知見から捉え、教師と生徒の人間関係において相互理解と信頼が生まれ、教師が生徒の成長を促すことができる質の高いコミュニケーションのあり方について理解を深め、実践し、教育効果を高める契機を提供する。
なお、授業中に個々人が課題に取り組んだり、グループワークをしたりする機会も多く設け、双方向性の高い学生参画型の授業をおこない、学生の理解度と学習効果を高めていきたい。

到達目標

- (1) コミュニケーションに関する基礎的基本的な知識を理解し、説明できる。
- (2) 非受容を示すコミュニケーション、受容を示すコミュニケーションがどのようなかを理解し、説明できる。
- (3) カウンセラーが身につけているコミュニケーション力に関する知識を理解し、説明できる。
- (4) 生徒との間で相互理解と信頼が生まれ、成長を促すコミュニケーション能力を身につけ、その能力の向上を目指し、日常的に実践する。
- (5) 問題を抱えた生徒の助けとなる教師になれるよう相手の真意を理解し、受容するコミュニケーションの取り方について日常的に練習を積んでいる。
- (6) 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる。
- (7) 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力を進めることができる。
- (8) 情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる。
- (9) 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる。
- (10) 新しい視点と豊かな発想によって新しい価値を見いだすことができる。
- (11) 講義で得た知識を日常生活において実践し身につけることにより他者との間に相互に

提出課題

ほぼ毎回の授業でミニ課題やアンケート等を課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

ミニ課題やアンケート等の提出課題に書かれた内容を毎回の授業で話題にし、前回の授業の振り返りや補足説明を行う機会とするとともに、次の授業内容に組みこんで授業の新たな展開に役立てることにより、学生の理解に即して学生の理解を高めるように活用する。

評価の基準

ほぼ毎回の授業で課すミニ課題と3回にわたる試験をもとに到達目標に照らして総合的に評価する（詳細は授業中に示す）。

履修にあたっての注意・助言他

- 次の4点が厳しく求められることをあらかじめ理解しておくこと。
- (1) 毎回熱心にノートをとりながら学ぶこと。
 - (2) 担当教員の指示に従い積極的かつ主体的に学ぶこと。
 - (3) わからないことや疑問はそのままにせず積極的に挙手して質問すること。
 - (4) 授業中に学んだことを教室の中で終わらせずに日常生活において実際に試してみる、練習してみるにより、知識を知識で終わらせずに日常生活において実践し役立てられるように努力すること。

教科書
. 使用しない。

プリント資料及び参考文献

授業中に随時教材プリントを配布し、参考文献を紹介する。

授業計画

1. 自分自身を知る：自己紹介を通して理解を深める（担当：池田）
2. 価値観の違いを知る(1)：他者の意見を理解する（担当：池田）
3. 価値観の違いを知る(2)：「思い込み」「先入観」に気づく（担当：池田）
4. 話す・聴く、応える(1)：基本的な心構え（担当：池田）
5. 話す・聴く、応える(2)：自分の話し方、聞き方、応え方を知る（担当：池田）
6. コミュニケーションにおける非受容性と受容性（担当：西尾）
7. 非受容的なコミュニケーション(1)：問題を抱えた生徒の対応を誤った教師の事例（担当：西尾）
8. 非受容的なコミュニケーション(2)：不満を抱えた息子の対応を誤った父親の事例（担当：西尾）
9. 受容的なコミュニケーション(1)：「黙くこと」の3つの心理学的効果（担当：西尾）
10. 受容的なコミュニケーション(2)：「同じ方向をみる」「つきあう」という姿勢（担当：西尾）
11. 受容的なコミュニケーション(3)：受容に徹する態度の事例（受容と許容の違い）（担当：西尾）
12. 受容的なコミュニケーション(4)：共感と感情的癒着・同一化（担当：西尾）
13. アクティブ・リスニングの理論（担当：西尾）
14. アクティブ・リスニングの実践例（担当：西尾）
15. 全体総括：他者受容と自己受容（担当：西尾）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回学んだことをノートや配布プリントを使って復習すること（1時間程度）。また、次の授業日までに学んだことを日常生活において一週間かけて（3時間程度）試したり練習したりすることを次の授業の予習とする。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ①毎回の授業の冒頭で前回の復習をかねて、前回のミニ課題を話題に取り上げ、学生とのやりとりを行う。
- ②授業中に頻繁に学生に問いかけ返答を求める機会をつくりながら進める。

実務経験の有無及び活用

備考

体調を整え、毎回の授業を楽しみに出席する学生を歓迎する。授業では授業内容に集中し、熱心に学びとろうとする主体性が強く求められる。そのことを約束できる学生のみを受講を歓迎したい。